

化学物質過敏症とは何か

—研究の現在と未来 治療までを視野に入れて—

講師 坂部 貢 先生

日時 2018年10月20日(土) 14時~15時30分 (開場13時30分)

会場 万国橋会議センター 4階 401.402 会議室 (裏面地図参照)

主催 特非 化学物質過敏症支援センター

(CS 支援センター) TEL.045-222-0685

参加費 1,000 円

坂部 貢 先生 略歴

1982年 東海大学医学部卒業

1994年 東海大学医学部助教授

2002年 東京医科歯科大学大学院客員教授

国立環境研究所客員研究員

2004年 北里大学 北里研究所病院臨床環境医学センター長、同 薬学部公衆衛生学講座教授

2009年 東海大学医学部生体構造機能学領域教授

2016年 同大学医学部長

専門分野 環境生命医学、解剖学

1992年日本臨床環境医学会が設立され、日本における化学物質過敏症の本格的な研究が始まりました。2002年、石川 哲先生ひきいる研究班は化学物質過敏症の客観的診断法の確立とその病態の理解に向けた3年間にわたる学際的な研究の成果を発表し、国際的に高い評価を得ました。

研究班は臨床の各科以外に工学・応用化学の研究者、大気・室内空気の専門家を含み、厚生省アレルギー研究班が1998年に作成した化学物質過敏症患者

者の診断法により基本診断され、加えて患者発見とグレードづけのために Ashford と Miller らによって作られ石川 哲先生、宮田幹夫先生が翻訳した QEESI を利用しての疫学調査をもとに、出来る限りの他覚的手段による技術を駆使して行われ、諸外国のアンケート中心の研究とは一線を画するものだったからです。

それから10年以上、石川 哲先生が道筋をつけた研究はさらに坂部 貢先生を中心に遺伝子解析や脳科学的な手法を強化して深められ、精度を増して多くの成果をあげてきました。

CS 支援センターでは2015年11月に「化学物質過敏症 研究の最前線 嗅覚過敏 そのとき脳の中では」と題して坂部 貢先生にご講演いただきました。(ご講演は全文を書き起こし会報第88号、89号、90号に掲載しております。)

その中で、嗅神経は発生学的には脳がそのまま飛び出して外に出てきた裸のままの状態の脳であること、臭いの刺激というのは脳そのものを直接刺激している、つまりにおいの影響というのは直接脳に影響している、と。

脳の中で起きていること、それを知ることがこの疾患の病態を解明し理解して治療に結びつけるために重要である、と先生はおっしゃっています。

参加申込書

CS支援センター 会員・非会員 いずれかに○をお付けください。

お名前 _____

お電話 _____

ご住所または所属 _____

CS 支援センター TEL.045-222-0685 FAX.045-222-0686

※10月19日までにお申し込みください。